

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

宝ホールディングス株式会社（証券コード:2531）

【据置】

長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的
債券格付	A
発行登録債予備格付	A
国内CP格付	J-1

■格付事由

- 宝グループの持株会社。中核である酒類・調味料事業（宝酒造）の他、海外酒類および日本食材卸事業（宝酒造インターナショナル）、バイオ産業支援や遺伝子医療などのバイオ事業（タカラバイオ）などを展開する。酒類は甲類焼酎やみりんで国内トップシェアを有し、清酒やソフトアルコール飲料も業界上位にある。近年、海外事業を積極化しており、M&Aを通じ日本食材卸の販売網を拡大させている。持株会社のガバナンス状況などからグループの一体性は強く、格付にはグループ全体の信用力を反映させている。
- 国内酒類市場は縮小傾向にあるが、付加価値商品の開発・販売などにより各カテゴリで高いプレゼンスを維持している。海外日本食材卸やバイオは、成長戦略が着実に進展し利益水準が高まってきた。グループ全体で、収益源の多様化や地域分散を伴った事業基盤強化が進みつつある。一方、継続的なM&Aで総資産は拡大しているが、利益蓄積も着実に進んでおり安定した財務基盤が維持されている。以上を踏まえ、格付は据え置き、見通しを安定的とした。
- 19/3期営業利益は173億円（前期比10.8%増）と3期連続で最高益を更新する計画。各事業とも増益を見込む。酒類・調味料では、「焼酎ハイボール」を中心としたソフトアルコール飲料が引き続き伸長している。海外日本食材卸では、欧米を中心に新規顧客の獲得が進んでいる。バイオでは、海外での研究用試薬販売が好調である。加えて、遺伝子医療では製薬会社と開発・販売契約を締結したことで、対価料収入が確保できるようになった。当面、各事業とも業績は堅調に推移するとみられる。
- 19/3期第2四半期末の自己資本比率は51.3%。手元流動性は厚く、グループ全体でネットキャッシュの状態となっている。有利子負債/EBITDA倍率は、10年代前半の3倍前後から近時は2倍程度まで低下している。利益成長の見込める分野への投資は積極的に行う方針であり、現在、ソフトアルコールの生産ライン増設や北米での物流倉庫の拡張などを進めている。ただ、今後も投資支出と財務健全性のバランスに配慮した財務運営方針が維持されるとみられる。

（担当）藤田 剛志・坂井 英和

■格付対象

発行体：宝ホールディングス株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第11回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	50億円	2010年5月26日	2020年5月26日	1.561%	A
第13回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	50億円	2012年4月26日	2022年4月26日	1.162%	A
第14回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	50億円	2017年4月25日	2022年4月25日	0.100%	A
第15回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	50億円	2017年4月25日	2024年4月25日	0.220%	A

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第16回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	50億円	2017年4月25日	2027年4月23日	0.315%	A
対象	発行予定額	発行予定期間		予備格付	
発行登録債	200億円	2017年2月21日から2年間		A	
対象	発行限度額	格付			
コマーシャルペーパー	100億円	J-1			

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2019年1月11日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：千種 裕之
主任格付アナリスト：藤田 剛志
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「食品」（2011年7月13日）、「持株会社の格付方法」（2015年1月26日）、「国内事業法人・純粋持株会社に対する格付けの視点」（2003年7月1日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） 宝ホールディングス株式会社
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であることを問わず、当該情報の正確性、結果の確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

用語解説

予備格付：予備格付とは、格付対象の重要な発行条件が確定していない段階で予備的な評価として付与する格付です。発行条件が確定した場合には当該条件を確認し改めて格付を付与しますが、発行条件の内容等によっては、当該格付の水準は予備格付の水準と異なることがあります。

NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル